

## T12b 魚座-ペルセウス座超銀河団の銀河の向きの分布

勝野 由夏 (東北大理)、中本 亮 (東北大理、河北新報)、市川 隆 (東北大理)、渡辺 大 (科学技術振興事業団)

Watanabe(1995) によって得られたデータを用いて魚座-ペルセウス座 (Pisces-Perseus) 領域における銀河の向きの分布について調べた。本研究の特徴としては、魚座-ペルセウス座領域は超銀河団のスケールであるので現在でも構造が形成された当初の力学状態をとどめていると考えられること、また、局所超銀河団と違いその外部から観測することができることが挙げられる。

本研究で用いた観測データ、全 1524 銀河のうち、大きさと形態から制限した 807 個の銀河の向きは魚座-ペルセウス座超銀河団面に関してランダムな分布をすることが分かった。我々はさらに超銀河団の中心から近い領域に存在している銀河の向きの分布を調べるために、後退速度に制限を与えた 299 個の銀河について解析を行った。また銀河の形態による銀河の向きの分布について調べるために、サンプルを早期型渦巻銀河と晩期型渦巻銀河に分類し解析を行った。どちらの場合に関しても顕著な特徴は見られず、銀河は魚座-ペルセウス座超銀河団面に関してランダムな分布をとることが分かった。